

問 鵜野地区の戦争遺跡整備について。

答 鵜野飛行場跡地や防空壕などの歴史遺産を生かした観光整備（散策用歩道・防空壕・飛行場・解説サイン・侵入防止フェンス等）を行い、観光客や地域住民が共に憩い、交流するまちづくりを進めていこうと考えています。



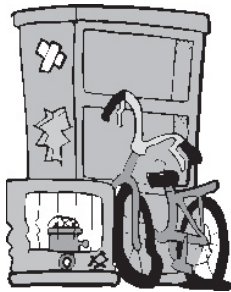
（平和祈念の碑）

問 建物除却費の助成により、市街地の住環境整備はどのように進むのか。

答 呼び掛けやPRを続け、年間2～3件の除却を目指しています。また、本事業は主体を行政に置いたものではなく、住民と行政との共同のまちづくりと位置づけています。

問 粗大ごみ拠点回収を実施したモデル地区での現状について。

答 26年度は4地区で実施し、地元の協力、責任施行ということで、各地区において7名程度参加してもらい、8種目への分別の指導から積み込みまでを実施していただきました。地域で助け合うことが大事であり、なかなかよい事業であるとの意見も多く、今後も検証しながら進めていきたいと考えています。



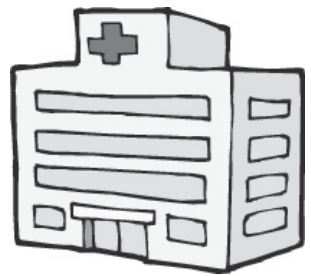
問 小野加東加西環境施設事務組合負担金が27年度に増額となっている理由と搬入量の実績について。

答 負担金の増額は、搬入・販売手数料の収入減、電気使用料や長期修繕計画による工事費等の支出増に起因しています。また、本市からの搬入量については、約1,000トン（可燃・粗大）減量されており、主要因である剪定枝の堆肥化及び粗大ごみ・小型家電のリサイクルも影響しています。

問 国保での慢性腎臓病の予防状況や、ジェネリック医薬品への切りかえ促進効果について。

答 レセプトを利用し、健診時の異常を医療機関において再検査していない方を特定し、重点的に保健指導することで医療費の抑制につなげていきます。

また、ジェネリックの使用率は、25年度から26年度にかけて5%増となっており、相当の効果額が発生しています。これは、窓口での説明や老人クラブ連合会・医師・薬剤師による推進の成果といえます。



問 平成28年度からの県水の引き下げ状況について。

答 県企業庁が平成26年度に各受水団体にヒアリングを行い、施設更新等の費用を考慮した上で、水道料金の算定作業に入っています。

27年度に入り、詳細な根拠資料を示した上で、再度受水団体と会議を行い最終決定をし、県の9月議会で上程する予定とのことです。

なお、未確定ですが、値上げはしないとのことなので、おそらく値下げの方向と考えています。

問 水道事業民間委託費の増額について。

答 上下水道業務（お客様センター）の更新にあたり、プロポーザル方式により業者選定するなかで、加西市の方向性や経費削減について非常に建設的な意見を提案した業者に決定しました。年間200万円の増額に見合う効果を得られるものと考えています。



問 県の地域医療構想の枠組みにおいて、北播磨に位置づけられている加西病院だが、来院者の住所地を考慮した、中播磨等の西部地域を検討することはできないのか。

答 構想区域の原則は二次医療圏ですが、そのほかに人口規模・受療動向・疾病構造の変化、基幹病院までのアクセス時間等から地域を決定するとあるため、計画案段階では明言できません。

また、急性期機能を持つ加西病院が市民にとって必要であると認識していましたが、今回の地域包括ケア病棟設置については、消極的に捉えず、ある意味、急性期病院としての機能をしっかり守っていく攻めの意思の表れであり、病院を残していくために、やるべきことはやっていきたいと考えています。